

(6) ファシリテーターについて

ワークシートを使って学習会を進行する人をファシリテーターと呼びます。これは、「学習をファシリテートする（しやすくする）人」（学習支援者）という意味です。

ファシリテーターは、学習活動を進行するうえで、次のようなことに気をつけてください。

1 学習会の計画

ファシリテーター（及びスタッフ）は、どういう年代の方を対象に、どういった内容（ねらい）の学習会を行うのか、事前にしっかり計画を練ってください。

参加者の実態に応じて、プログラムは自由に修正してください。それにに応じて、準備物や、活動の場（屋内か屋外かなど）も変わってくるかもしれませんし、ファシリテーターが複数いた方が良い場合もあるでしょう。

事前にしっかり計画しておくで、当日余裕を持ってファシリテートすることができます。

2 ファシリテーターの役割

学習者みんなが安心して学習活動を行え、その学習成果が最大限高まるよう、工夫しお手伝いするのがファシリテーターの役割です。

具体的には、たとえば次のような意識を持つことが大切です。

① 学習者の「自ら気づきまなぶ力」を引き出しましょう

学習者は、だれでも「自ら気づきまなぶ」力を持っています。

学習者自身が持っているその力を最大限に引き出すように、質問内容をわかりやすくかみ砕いたり、参加者の話のなかから臨機応変に質問を変えてみたりすることが大切です。

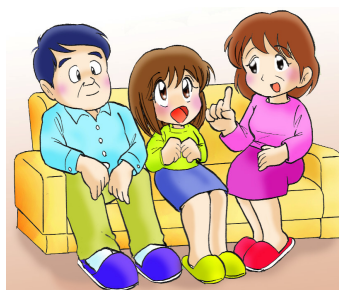
自分が持っている力を学習者（親）自身が認識することは、自分の子育てに自信を持ち、明日からまた元気に子育てをしていくうえで、とても重要なことです。

② 語り手ではなく、聞き手になりましょう

ファシリテーターは語り手ではなく、聞き手です。しかも、「上手な聞き手」であることが求められます。

黙って聞き、時々「ふんふん」と相槌を打つだけで、話す方は「わかってきている」「自分の話が受けとめられている」と安心し、もっと語りたくなります。そして語るうちに、自分のなかで「問題点」がだんだん整理され、はっきりしてきます。それが、「上手な聞き手」です。

上手な聞き手になることは、上手な語り手になることより、ずっと難しいかもしれません。しかし、時に、それは語る以上のメッセージを、相手に届けることもあります。



イラスト：うじな かずひこ

③ 力の均衡（パワーバランス）を大切にしましょう

参加者は、学習者もファシリテーターも、みな平等であり対等です。

だから、ファシリテーターは一人でしゃべり過ぎてはいけません。講演会や講義ではなく、参加型学習なのです。ファシリテーターは「教師」でもなければ「リーダー」でもありません。ファシリテーターが学習者より「強い力」を持ってはいけません。

また、学習者の間でも力の均衡が保たれるように、配慮しましょう。「一人が一方向的に発言し、他の者がしゃべりづらくなる」といった場面は、極力回避しなければなりません。そうなったら適宜アドバイスして流れを変えましょう。そうなる前に、みなが平等にしゃべることができる和やかな雰囲気づくりに気を配ることが、とても重要です。

④ コーディネーターでもあります

ファシリテーターは、参加者同士をつなぐコーディネーターでもあります。

学習者の中には、地域で孤立しがちな人もいられるかもしれません。子育てに忙しく家にもりがちな人もいられるでしょう。たまたま同じ時間を共有した学習者同士が、学習活動のなかで信頼感を共有し、学習後も互いに連絡を取り合い、支えあっていけるようになれば、言うことはありません。

学習者同士が人間関係を築けるように配慮することも、大切な役割です。

⑤ 深刻な問題は関係機関を紹介しましょう

学習活動のなかで、あるいは学習時間の後で、いじめや児童虐待など、深刻で緊急性の高い問題を相談されることもあります。

その場合には、いいかげんな知識でごまかさず、ただちに関係機関に相談するよう、アドバイスしてください。ファシリテーター自身が信頼して相談できる関係機関とつながっておくことができれば、学習者に負担をかけず、迅速に、責任を持ってそこへつなぐことができます。

他所へ紹介するときは、責任と丁寧を持ち、「私のことを心配してくれている」という信頼感を得ることが重要です。無責任な「たらい回し」のようなことだけは避けましょう。

⑥ いろいろな人の存在を意識しましょう

いろいろな事情や背景をもった方が、いろいろな思いで学習会に参加している場合があります。

ファシリテーターとして、いろいろな状況の方がいることを想定しておくことは、とても大切です。表情やしぐさなど参加者一人一人の様子に気を配りながら、言葉の使い方やニュアンスなども工夫しましょう。

プログラムを展開していて、大多数の人は笑顔なのに一人だけ表情が冴えないという方や、突然黙り込んだり泣き出したりした方がいれば、その人の思いを受けとめながら、講座終了後に個別に話を聞くなど、丁寧で誠意ある対応をしましょう。